

まきの
牧野

えいじ
英二さん (48歳)

りょうこ
涼子さん (43歳)

(営農類型：露地野菜)
(平地)

新規就農までの経緯・背景

実家は非農家、夫は農業機械の研究開発の仕事、妻は酪農ヘルパーに5年従事。生涯現役で働くことのできる農業に魅力を感じ、新・農業人フェアへの参加やさいたま市の体験農園の実践を経て、2人で自然豊かな児玉地域への就農を決意。本庄市児玉地区の指導農家から指導を受けながら、埼玉県農業大学の職業訓練や児玉地域明日の農業担い手育成塾で約1年研修後、平成23年6月、本庄市に農地と住宅を確保し、新規就農。

農業次世代人材投資資金の活用例

平成26年の雪害で4年目の所得が落ち込んだが、倒壊した作業場の再建等に資金を活用し、経営の危機を回避することができた。



左:指導者、中央:涼子氏、右:英二氏

経営発展のポイント

- 品目は、指導農家と同様の地域の主要野菜を作付け、その後、新規品目も追加し、自分たちに合った露地野菜経営を実践。
- 農地は、当初、指導農家や地域の知り合いの伝手で借りていたが、年数が経つうちに、地域の支援を受け、スムーズに拡大していくことができた。

今後の取組

栽培技術の向上や作業の省力化で所得250万円を目標に経営の安定をはかる。
—昨年、地元農産物をPR活動するグループ「本庄農業女子」を立ち上げ、その活動も含め地域の農業に貢献していきたい。

経営の推移と今後

経営初期 (1~2年目)

露地野菜 70a
(なす20a、ブロッコリー20a等)
•平成23年6月に経営開始
•2年目の農業所得は約-120万円

3~6年目

露地野菜 150a→210a
(ブロッコリー60→80a、たまねぎ35a、なす・カブ10a、加万ワ-10→30a等)
•農地拡大とともに新規品目を栽培
•農業所得は約60万円(4年目は雪害により一時マイナスとなる)
•3年目から農業次世代人材投資資金を受給

現在 (7年目)

露地野菜 200a
(ブロッコリー70a、たまねぎ30a、加万ワ-30a、なす・カブ10a等)
•農地拡大はすすむ
•農業所得は約170万円

今後の目標 (10年目)

露地野菜 約200a
(品目は、ほぼ同様)
•効率的な安定生産を実施
•地域農業をPR
•農業所得目標は250万円

きたあだちぐんいなまち
埼玉県北足立郡伊奈町

おおはし

かずゆき

大橋 一幸 さん (31歳)

(営農類型：露地野菜)
(平地)

新規就農までの経緯・背景

- ・県農業大学校を平成19年に卒業。実家は農家ではないが、独立自営就農を目指し先進農家において1年半、県農林公社において2年間の営農実践研修を実施、平成23年に就農計画が認定され、住所地の伊奈町農業委員会において農地の利用権設定が認められ、就農。
- ・就農に際して就農支援資金や事業等を活用しトラクタ等必要な機械を整備した。

経営発展のポイント

- ・大学卒業後、大規模野菜農家において野菜栽培についてのノウハウを学び、公社の実践研修において学んだことを体現でき、自信がついた。
- ・経営開始にあたり、関係機関の協力・連携体制により、農地の確保と事業活用による必要な農業機械の整備ができた。
- ・大学時代の同級生とともに、相談しながら生産や販売に取り組み、それぞれの得意分野を生かして、生産と販売を軌道に乗せることができた。

農業次世代人材投資資金、無利子融資の活用例

経営体育成支援事業と就農支援資金を活用しトラクタ等必要な機械を整備、農業次世代人材投資資金は規模拡大に伴う次作準備や雇用の資金として活用できた。



今後の取組

3年後には、近隣市町も含めて10haの露地野菜経営を目指す。

また、将来は法人化を目指し企業的な経営へと移行したい。

経営の推移と今後

経営初期 (1~2年目)

露地野菜
110a→190a

- ・友人と平成23年110aで経営開始
- ・初年度売り上げ 550万円
農業所得は約65万円
- ・国庫事業活用で農業機械整備

3~4年目

露地野菜 450a

- ・生産が安定。規模拡大に伴い経費増。
- ・農業次世代人材投資資金を次作準備に活用することにより、経営を軌道に乗せる。
- ・売上1,500万円、農業所得は約200万円

現在 (5~7年目)

露地野菜 550a

- ・飲食店や惣菜工場へ販路拡大。
- ・生活安定し、本人結婚。妻も手伝う。
- ・売上1,500万円、農業所得は約280万円

今後の目標 (8~10年目)

露地野菜 1000a

- ・中間管理機構を活用し、規模拡大。
- ・農業法人の設立を予定。
- ・農業所得の目標は1,000万円